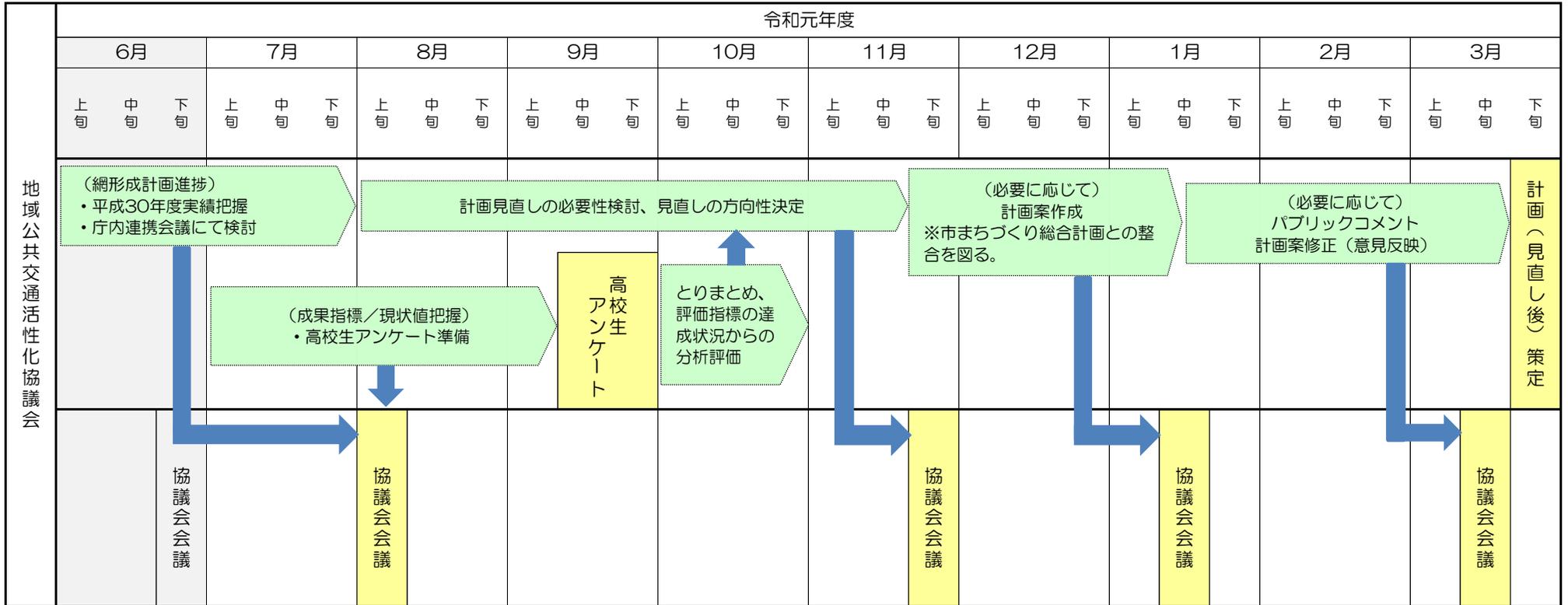
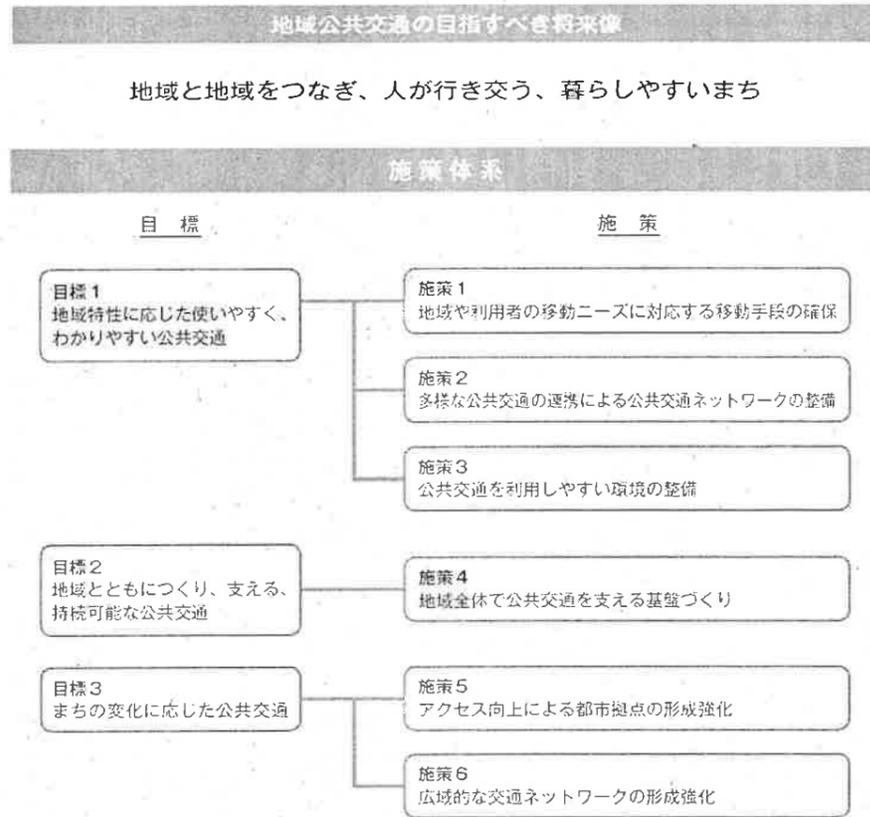


【第4号議案】

新発田市地域公共交通網形成計画の中間評価の進め方について



■新発田市地域公共交通網形成計画 体系図



■評価指標の年度別達成状況

【目標1】 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
		目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値
① 路線バスの年間利用者数 ※バス事業年度(10月から翌9月まで)	120,371人 (H28年度)	121,175人 109,657人	121,979人	122,783人	123,588人	124,392人	125,196人	126,000人
	達成状況	× 運行維持のため、市が補助金を交付している11路線を対象としているが、H28とH29を比較すると11路線中8路線で利用者数が減少している。H29年10月には7路線の見直しをしており、今後も利用者数の推移をみながら、改善を図る必要がある。						
② コミュニティバスの年間利用者数	108,401人 (H27年度)	111,487人 121,060人	114,572人	117,658人	120,743人	123,829人	126,914人	130,000人
	達成状況	○ H29実績値の内訳は、新発田市コミュニティバス(菅谷・加治)64,947人(前年度比94%)、川東コミュニティバス56,113人(前年度比115%)で、川東コミュニティバスで利用者数が増加した。川東コミュニティバスの主な増加要因としては、商業高校生と竹俣特別支援学校生の利用が伸びていることがあげられる。なお、新発田市コミュニティバスは、地域の高校生の人数が減少したことによって利用者数が減少しているものと考えられる。今後も高校生の人数は減少していくと考えられることから、運転に不安を感じる高齢者等の利用促進を図っていく必要がある。						
③ 路線バスの見直し地区数	4地区 (H28年度)	6地区 4地区	7地区	8地区	8地区	8地区	8地区	8地区
	達成状況	× 学校統合等により路線バスの見直しを行った地区は、菅谷・加治、川東、五十公野・米倉・赤谷、松浦の4地区となっている。豊浦地区、紫雲寺地区の見直しをH29から進める予定としていたが、学校統合に係る地域説明、意向確認等に時間を要したことから、H30から本格的に見直しに着手する予定としている。						
④ 「バスどこ？」HPへの年間アクセス件数	14,162件 (H27年度)	15,710件 32,098件	17,259件	18,807件	20,355件	21,903件	23,452件	25,000件
	達成状況	○ スマートフォンの普及により、PC/スマホのアクセス率がH27の76.4%からH29には90.2%に伸びている。今後も、「バスどこ？」の周知や機能拡充などにより、バス利用に係る不安の解消を図り、バスを利用しやすい環境の整備を進めていく。						

【目標2】 地域とともにづくり、支える、持続可能な公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
		目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値
① 地域における検討支援体制の構築数	4団体 (H28年度)	6団体 4団体	7団体	8団体	8団体	8団体	8団体	8団体
	達成状況	× 学校統合の検討を進める地区を最優先に公共交通の見直しを進めているが、豊浦地区、紫雲寺地区の見直しをH30から本格着手することから、検討体制の数も現状維持となっている。						
② 路線バス利用者1人当たり運行経費	1,077円/人 (H28年度)	1,070円/人 1,205円/人	1,063円/人	1,056円/人	1,049円/人	1,042円/人	1,035円/人	1,028円/人
	達成状況	× H28とH29を比較すると、運行維持のため、市が補助金を交付している11路線のうち8路線で運行経費が増加している一方で、利用者数も減少していることから、一人当たり運行経費が伸びている。運行の効率化、利用促進を図り、改善していく必要がある。						
③ コミュニティバス利用者1人当たり運行経費	747円/人 (H27年度)	729円/人 683円/人	712円/人	694円/人	676円/人	658円/人	641円/人	623円/人
	達成状況	○ 新発田市コミュニティバス(菅谷・加治)、川東コミュニティバスともに運行経費が増加しているものの、利用者数が増加していることから、一人当たり運行経費が減少した。今後は、高校生の減少に伴い、利用者数が減少していく恐れがあることから、運行経費の削減と、地域との協働による利用促進を図っていく。						
④ 公共交通の利活用を推進する年間取組数	4件 (H28年度)	10件 6件	11件	12件	12件	12件	12件	12件
	達成状況	× 乗り方教室の実施を予定していたが、参加希望がなく実施できなかった。乗り方教室の実施方法について見直しを図るとともに、将来にわたって地域の公共交通を維持していくため、今後も地域との連携による利用促進の取組を積極的に進めていく。						

【目標3】 まちの変化に応じた公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
		目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値
① あやめバス(市街地循環)の年間利用者数	80,582人 (H27年度)	80,956人 81,661人	81,330人	81,704人	82,078人	82,452人	82,826人	83,200人
	達成状況	○ あやめバスの利用者数は、H26から減少傾向にあったが、H29はH26と同程度まで回復した。中心市街地における重要な移動手段として、利用者ニーズを把握し、電車や他の路線バス等との乗継ぎに考慮したダイヤ設定や商業施設等の立地に応じた運行の見直しを図ることで、利用者数を維持していく。						
② 通学における高校生の公共交通利用率	51.0% (H28年度)	52.4% —	53.9% —	55.3% —	56.7% —	58.1% —	59.6% —	61.0% —
	達成状況	— ※H31年度(計画の中間評価)、H35年度(計画の最終評価)にアンケート調査を実施して把握する。						